

ぼんぼり山便り

2007年9月から「緑の募金」から助成を受け、「緑の募金公募事業」として森林整備活動に取り組んでいます

<http://members2.jcom.home.ne.jp/bonbori/>

活動報告の詳細等は、ホームページにて...

第26回定期活動の報告

(5月18日 第三日曜日)

・参加者 19名

・今日の活動は、ヒノキ林の除伐及びボサ刈・林床整理の続きの他、一月に剪定した柚子の枝の焼却処分も始める。また、柚子の苗木畑の草刈も行なうことにした。

【除伐・林床整理】

・ヒノキエリアで先月やり残した除伐を引き続き行った。途中から枝が二股に分かれている木は、重心がどちらに向いているかが非常にわかりづらい。きつとこの方向と違って切っても、違う角度で倒れてしまう。

・今回でこのエリアの除伐は終わらせたいし、倒すべく残った木は先月のに比べると太いものが多かったため、受け口、追い口は私の練習のために鋸で切らせてもらい、玉切りはチェーンソーの応援を頼んだ。そのおかげで、午前中で除伐作業を終わらせることができた。

・午後は、他の参加者がやっている上部へとつづくボサ刈りに参加した。大木化しているアオキをはじめ、生い茂る森の中へ切っては進み、切っては進み、自然と夢中になって時間を忘れてしまふボサ刈りだが、大勢で作業をしているので、ふと周りに目をやるとあっといいう間に視界が広がっているのがわかる。



【草刈】

・柚子の苗の周囲の草は坪刈りされ、目印の枝などが立てられているが、畑全体には苗の背丈を越えた草が覆っており、この草を刈って欲しいという依頼。その依頼を取次いだ仲間が、会長代行の指名を受け、所有者宅の仮払機を借りて草刈作業。この仮払機の刃は合成繊維？の紐状のものが3〜4本取付けられており柔らかい草を刈るには適しているとのこと。これだと石などがあつた場合でも巻き込んで飛ばすことがないので安心して作業ができる利点もあるという。但し、硬い茎のあるような草には不向きとのこと。

・午後の作業では仮払機に初挑戦の仲間も現れた、その結果に自信を得たようだ。さっそく、今日、新たに依頼を受けた草刈



を次回の活動日にやってもらおうかという声があがっていた。

【つばきのマーキング】

・群生しているツバキを残すことに決まったことを受け、残す対象とするツバキの木にテープでマーキングすべく森の奥へ入った。現在ボサ刈を終えた所から更に上がったところにツバキはあつたが、日当たりが不十分なのか樹高に比べ幹が細いのが目立つ。

〔下段へつづく〕

何本かマーキングしながら周囲を調べた結論として、原則としてツバキは残し、その他の雑木は切り払うということにした。幸いにも心配していた茶毒蛾の被害はなかった。

【柚子剪定枝の処理】

・おばーちゃんのところにあつたドラム缶をもらい上部を切取り、下部には空気取入れ口の穴を開け空き地に設置し準備完了、さっそく焼却を始めた。十数本分の剪定枝だけかなりの量がある。その分、これがなくなればずいぶんとすっきりするでしょう。



【こ馳走様でした】

・作業を終え戻ってくると、手作りのお饅頭とお茶を入れて待っていてくれた。昔は仕事の疲れを癒すおやつとして多くのお宅で作られていたそう。疲れた体に温かいお茶と甘いお饅頭、ご馳走さまでした。



： 文：ホームページより

ぼんぼり山便り

2007年9月から「緑の募金」から助成を受け、「緑の募金公募事業」として森林整備活動に取り組んでいます

毎月第一土曜日、第三日曜日 10時～15時位に活動中です。

第27回定例活動の報告

(6月7日 第一土曜日)

参加者 19名

【除伐班】

今日の森林班は、ボサ刈りと手鋸による間伐、チェーンソーによる除伐作業に分かれることになった。自分と若手(心)女性もう一人の手鋸による間伐作業員に対し、「手鋸の達人」1人が指導に付く。

今日はロープがないので、架かり木にならないように倒さなければならぬ。つまり、木を倒す方向の狙いを定めたら、失敗することができない。「基本に忠実に、基本に忠実に。。。」と心の中で唱えながら切るのだが、なんとも難しい。「こしばらく木を倒していないので、緊張しながらも私の木こり精神(?)が甦る。

案の定、思い通りに倒れた確率は、たった50%程度。2度に一度は架かり木となる。そこで、「えいやーこりゃ」と丸太の押し引き大会が始まる。この動作、切り倒す作業よりずっと疲れる。なんと丸太を揺さぶり落とすと、すぐに隣から「達人〜!」と声がかかる。やはり隣も同じうだ。こうして、今日は達人を最大限に扱き使ってしまった!。この日は、この山の持ち主の息子さんに立ち会っていただき、下4分の1程のヒノキエリアの除伐にあたっての希望を伺った。



【ボサ刈班】

前回は続き右側の森での作業。竹林まで到達が目標。前回は雨降りの中での作業であったため、あまり周囲へ目配りする気持ちの余裕がなかったのか、アオキやカシ類などを切り払った後、あらためて周辺を

〔下段へつづく〕

見回して見ると立ち枯れ状態の木、曲がり木、幹にカビの生えた木、蔓に巻きつかれた木、倒木などの姿が目にとまる。蔓を切りスギやヒノキの幹周りの風通しを阻害している雑木を切り払いながら進む。先月、境界の確認の際に上下の竹林の境界を示すテープを張った所まで到達、そこから所から竹林に向かって横に進み昼前には竹林に到達、一応の目標に達した。



【林道整備】

基地から森を見上げると、頂上までの木々の間から空が見えるようになった。この二年の森林整備の効果はまさに一目瞭然。そのため林床にも下草が生えてきた。本来の森林の機能を回復しつつある。林床を維持していくには土を踏み固めないのが一番。そこで基地周り整備班は前回から森の道づくりを始めた。下界では道路の財源をめぐって建設の賛否があるが、そもそも予算のかからないこの道の建設工事に賛否の議論はない。間伐材を切った階段をつくり、スコップで掘り、余分な土を足でならす。うまい具合にこの森の土は碎石混じり。まさに最適な路盤材。人力のみで標高にして

約3メートル。総延長約3メートルがこの日の成果。きつと世界遺産になったという古道もこうした人力による名も知らぬ人たちの汗の結晶。

〔下段へつづく〕



となるこの階段も、この道もいつかは「ぼんぼり古道」なんて。勝手に想像。ちよつと考えすぎかな。ともあれ、毎月毎月、階段や道が延びて、人が歩き昔むした山道のようになっていくと想像しながら見果てぬ夢に汗をかき作業をつづける仲間の笑顔のみるだけでも楽しい。

【基地周り】

基地の周りにはいつも何人かは残る。これもまた、森林整備のなかで極めて重要な役目を果たしている。皆の昼食時の汁ものをつくったり、草を刈ったり、ゆずの枝をもらしたりと結構忙しい。暑い中でのゆずの枝の焼却はかなりの重労働。そんなとき、いれたてのコーヒーは最高。至福のひとつ。かつて殿下と呼ばれた仲間の「オウイ。コーヒーがはいったぞ〜」の声に近くで作業するものも手を休めてしばしのティータイム。ドリップ式の本格コーヒー。200円を竹筒の貯金箱に入れれば何杯でもおすというのがこの会のルールとなっている。いわば森の中のドリンクバー。休憩時も昼食後も、そして作業終了後も、いつでも森の中でコーヒーが飲めるようにという仲間の気持ちがある。そんなコーヒーや昼食時の味噌汁作りのために森の下から急坂を水を背負ってくる仲間の努力にも感謝。みんなは敬意を表し「ポッカ〇〇」「店長」と呼んでいる。そんないつもと同じ暖かく楽しい一日もあつという間に過ぎてしまった。

文：ホーナーズより

